

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択(卒業 / 保育士)	
授業科目名：レクリエーション概論 英語表記：Introduction to Recreation ナンバリング：1019			単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：金美珍 担当形態：単独
科目／系列		／教養科目		
施行規則に定める科目区分 または事項等／教科目		／外国語、体育以外の科目		
【授業の到達目標及びテーマ】 1. 対人支援の場におけるレクリエーションの意義や活用法について理解できる。 2. レクリエーション・インストラクターの役割について説明できる。 3. レクリエーション・インストラクターとしての具体的な支援技術を習得することができる。				
【授業の概要】 レクリエーションとは何か、レクリエーションの歴史・意義、レクリエーション・インストラクターの役割の理解など、レクリエーション・インストラクターとして必要な知識・技術を身につける。特に実際に対象・目的に合わせたレクリエーション計画の作成、レクリエーションプログラムの作成方法を身につける。				
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】				関連性
【知識・理解・技能】				
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。				
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。				○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。				○
【思考・判断・表現】				
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。				○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。				○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。				
【関心・意欲・態度】				
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。				○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。				○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。				
【授業計画】 第1回：レクリエーションについて 第2回：レクリエーション支援とは 第3回：レクリエーションの理解と歴史 第4回：楽しさを通じた心の元気づくり 第5回：ライフステージと心の元気づくり 第6回：レクリエーション支援におけるコミュニケーション 第7回：対象者との信頼関係 第8回：集団づくりの理解 第9回：集団の成長を通じた支援者の関わり 第10回：国際交流とレクリエーション 第11回：レクリエーションプログラムの作成① 第12回：レクリエーションプログラムの作成② 第13回：レクリエーションプログラムの作成③ 第14回：リスクマネジメント 第15回：レクリエーションをめぐる課題 定期試験：なし			【授業時間外の学習】 ・授業時に配布した資料を参考に振り返りを行う。(1時間) ・学習した内容が各自の日常生活にどのように位置づいているかを調べる。(1時間) ・レクリエーションは、特別な理解や技術ではなく、日常生活を豊かに過ごすための考え方であり、対象者に寄り添うための支援技術であることを普段の生活において意識し、参考になる資料を集める。(1時間)	

【授業の方法】 講義と演習、実技、グループ作業。ICT活用の授業も行なう。プログラム作成と実践に対しコメントをしてフィードバックする。	
【テキスト】 『楽しさをとoshした心の元気づくり』 日本レクリエーション協会	
【参考書・参考資料等】 適宜授業内で紹介する。	
【学生に対する評価】 授業参画度（40%）、レクリエーションプログラムの作成・実践（30%）、レポート（30%）。ルーブリックを活用し、総合的に評価する。	
【履修上の注意】 「レクリエーション・インストラクター」資格を取得希望の学生は、資格取得の必修授業なので必ず受講すること。但し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない学生でも受講できる。授業内容により体育館で行うことがある。また、羽生市内ほか県内のレクリエーション大会講習会を見学する事もある。積極的な態度で授業に取り組むこと。	
実務経験の有無：無	実務経験：
【実務経験を生かした教育内容】	